

医薬品インタビューフォーム
日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠し作成

ロイコトリエン受容体拮抗剤
アレルギー性鼻炎治療剤
日本薬局方モンテルカストナトリウム錠
モンテルカスト錠5mg「科研」
モンテルカスト錠10mg「科研」
MONTELUKAST Tab.

剤形	錠剤（フィルムコーティング錠）
製剤の規制区分	該当しない
規格・含量	5mg錠：1錠中、日局モンテルカストナトリウム（モンテルカストとして5mg）含有する。 10mg錠：1錠中、日局モンテルカストナトリウム（モンテルカストとして10mg）含有する。
一般名	和名：モンテルカストナトリウム（JAN） 洋名：Montelukast Sodium（JAN）
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	製造販売承認年月日：2016年8月15日 薬価基準収載年月日：2016年12月9日 発売年月日：2016年12月9日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	発売元：科研製薬株式会社 製造販売元：ダイト株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問合せ窓口	科研製薬株式会社 医薬品情報サービス室 TEL：0120-519-874 受付時間：9:00～17:00（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く） ホームページアドレス： https://www.kaken.co.jp/

本IFは2022年12月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器総合機構ホームページ <https://www.pmda.go.jp/> にてご確認ください。

IF 利用の手引きの概要 ー日本病院薬剤師会ー

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過した現在、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において IF 記載要領 2008 が策定された。

IF 記載要領 2008 では、IF を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-IF が提供されることとなった。

最新版の e-IF は、医薬品医療機器総合機構ホームページ（<http://www.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IF を掲載する医薬品医療機器総合機構のホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載に合わせて e-IF の情報を検討する組織を設置して、個々の IF が添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い、IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IF の様式]

- ①規格は A4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

[IF の作成]

- ①IF は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」（以下、「IF 記載要領 2013」と略す）により作成された IF は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IF の発行]

- ① 「IF 記載要領 2013」は、平成 25 年 10 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ② 上記以外の医薬品については、「IF 記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③ 使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

3. IF の利用にあたって

「IF 記載要領 2013」においては、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体の IF については、医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器総合機構のホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013 年 4 月改訂)

目 次

I. 概要に関する項目	1	9. 製剤中の有効成分の確認試験法	8
1. 開発の経緯	1	10. 製剤中の有効成分の定量法	8
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	11. 力価	8
II. 名称に関する項目	2	12. 混入する可能性のある夾雑物	9
1. 販売名	2	13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	9
(1) 和名	2	14. その他	9
(2) 洋名	2	V. 治療に関する項目	10
(3) 名称の由来	2	1. 効能又は効果	10
2. 一般名	2	2. 用法及び用量	10
(1) 和名(命名法)	2	3. 臨床成績	10
(2) 洋名(命名法)	2	(1) 臨床データパッケージ	10
(3) ステム	2	(2) 臨床効果	10
3. 構造式又は示性式	2	(3) 臨床薬理試験	10
4. 分子式及び分子量	2	(4) 探索的試験	10
5. 化学名(命名法)	2	(5) 検証的試験	10
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2	(6) 治療的使用	10
7. CAS登録番号	2	VI. 薬効薬理に関する項目	11
III. 有効成分に関する項目	3	1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群	11
1. 物理化学的性質	3	2. 薬理作用	11
(1) 外観・性状	3	(1) 作用部位・作用機序	11
(2) 溶解性	3	(2) 薬効を裏付ける試験成績	11
(3) 吸湿性	3	(3) 作用発現時間・持続時間	11
(4) 融点(分解点)、沸点、凝固点	3	VII. 薬物動態に関する項目	12
(5) 酸塩基解離定数	3	1. 血中濃度の推移・測定法	12
(6) 分配係数	3	(1) 治療上有効な血中濃度	12
(7) その他の主な示性値	3	(2) 最高血中濃度到達時間	12
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	(3) 臨床試験で確認された血中濃度	12
3. 有効成分の確認試験法	3	(4) 中毒域	13
4. 有効成分の定量法	3	(5) 食事・併用薬の影響	13
IV. 製剤に関する項目	4	(6) 母集団(ポピュレーション)解析により判明した薬物体内動態変動要因	13
1. 剤形	4	2. 薬物速度論的パラメータ	13
(1) 剤形の区別、外観及び性状	4	(1) 解析方法	13
(2) 製剤の物性	4	(2) 吸収速度定数	13
(3) 識別コード	4	(3) バイオアベイラビリティ	13
(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定なpH域等	4	(4) 消失速度定数	13
2. 製剤の組成	4	(5) クリアランス	13
(1) 有効成分(活性成分)の含量	4	(6) 分布容積	13
(2) 添加物	4	(7) 血漿蛋白結合率	13
(3) その他	4	3. 吸収	13
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	4	4. 分布	13
4. 製剤の各種条件下における安定性	5	(1) 血液-脳関門通過性	13
5. 調製法及び溶解後の安定性	5	(2) 血液-胎盤関門通過性	14
6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)	5	(3) 乳汁への移行性	14
7. 溶出性 ³⁾	5	(4) 髄液への移行性	14
8. 生物学的試験法	8		

(5) その他の組織への移行性	14	2. 毒性試験	20
5. 代謝	14	(1) 単回投与毒性試験	20
(1) 代謝部位及び代謝経路	14	(2) 反復投与毒性試験	20
(2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分子種	14	(3) 生殖発生毒性試験	20
(3) 初回通過効果の有無及びその割合	14	(4) その他の特殊毒性	20
(4) 代謝物の活性の有無及び比率	14	X. 管理的事項に関する項目	21
(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ	14	1. 規制区分	21
6. 排泄	14	2. 有効期間又は使用期限	21
(1) 排泄部位及び経路	14	3. 貯法・保存条件	21
(2) 排泄率	14	4. 薬剤取扱い上の注意点	21
(3) 排泄速度	14	(1) 薬局での取扱い上の留意点について	21
7. トランスポーターに関する情報	14	(2) 薬剤交付時の取扱いについて (患者等に留意すべき必須事項等)	21
8. 透析等による除去率	15	(3) 調剤時の留意点について	21
VIII. 安全性 (使用上の注意等) に関する項目	16	5. 承認条件等	21
1. 警告内容とその理由	16	6. 包装	21
2. 禁忌内容とその理由 (原則禁忌を含む)	16	7. 容器の材質	21
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	16	8. 同一成分・同効薬	22
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	16	9. 国際誕生年月日	22
5. 慎重投与内容とその理由	16	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	22
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	16	11. 薬価基準収載年月日	22
7. 相互作用	16	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	22
(1) 併用禁忌とその理由	16	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	22
(2) 併用注意とその理由	17	14. 再審査期間	22
8. 副作用	17	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	22
(1) 副作用の概要	17	16. 各種コード	22
(2) 重大な副作用と初期症状	17	17. 保険給付上の注意	23
(3) その他の副作用	17	XI. 文献	24
(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧	18	1. 引用文献	24
(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度	18	2. その他の参考文献	24
(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法	18	XII. 参考資料	25
9. 高齢者への投与	18	1. 主な外国での発売状況	25
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	18	2. 海外における臨床支援情報	25
11. 小児等への投与	18	XIII. 備考	26
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	18	1. その他の関連資料	26
13. 過量投与	18	(1) GS1 コード	26
14. 適用上の注意	19		
15. その他の注意	19		
16. その他	19		
IX. 非臨床試験に関する項目	20		
1. 薬理試験	20		
(1) 薬効薬理試験	20		
(2) 副次的薬理試験	20		
(3) 安全性薬理試験	20		
(4) その他の薬理試験	20		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

モンテルカストナトリウムはロイコトリエン受容体拮抗剤であり、本邦では 2008 年より上市され、広く臨床で使用されている。

モンテルカスト錠 5mg「科研」及びモンテルカスト錠 10mg「科研」は、モンテルカストナトリウムを主成分とする後発医薬品としてダイト株式会社が開発を企画し、薬食発 1121 第 2 号（平成 26 年 11 月 21 日）に基づき、規格及び試験方法を設定、加速試験、生物学的同等性試験を実施し、2016 年 8 月に製造販売承認を取得、2016 年 12 月に発売に至った。また、モンテルカスト錠 5mg「科研」及びモンテルカスト錠 10mg「科研」は、2017 年 1 月に「気管支喘息」の効能追加の一部変更承認を取得した。

なお、モンテルカストナトリウム及びモンテルカストナトリウム錠は、第十七改正日本薬局方に収載された。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- 1) PTP シートはピッチ印刷の採用により 1 錠単位で「製品名」「含量」を判りやすく表示しており、PTP シート裏面は視認性を高めるため白地にして GS-1 コードを表示している。
- 2) 錠剤には識別性向上のため「製品名」「含量」を印字している。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

モンテルカスト錠 5mg 「科研」、モンテルカスト錠 10mg 「科研」

(2) 洋名

Montelukast Tab. 5mg 「KAKEN」、Montelukast Tab. 10mg 「KAKEN」

(3) 名称の由来

「有効成分名」 + 「剤形」 + 「規格」 + 「屋号」 より命名。

2. 一般名

(1) 和名 (命名法)

モンテルカストナトリウム (JAN)

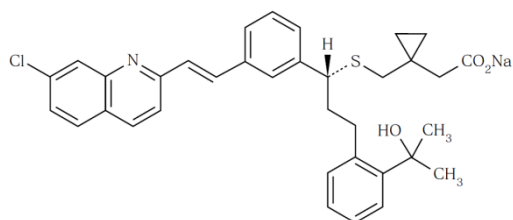
(2) 洋名 (命名法)

Montelukast Sodium (JAN)

(3) ステム

-lukast (ロイコトリエン拮抗薬)

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : $C_{35}H_{35}ClNNaO_3S$

分子量 : 608.17

5. 化学名 (命名法)

Monosodium{1-[(1*R*)-1-{3-[(1*E*)-2-(7-chloroquinolin-2-yl)ethenyl]phenyl}-3-[2-(2-hydroxypropan-2-yl)phenyl]propyl]sulfanyl)methyl]cyclopropyl}acetate (IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

該当資料なし

7. CAS 登録番号

CAS No. : 151767-02-1 (montelukast sodium)

III. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色～微黄白色の粉末である。
吸湿性である。
光によって黄色に変化する。

(2) 溶解性

溶 媒	1g を溶かすのに要する溶媒量	日本薬局方の 溶解度表記
メタノール、エタノール(99.5)	1mL 未満	極めて溶けやすい
水	1mL 以上 10mL 未満	溶けやすい

(3) 吸湿性

「(1) 外観・性状」の項参照

(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

水分：4.0%以下（0.3g、容量滴定法、直接滴定）

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

日本薬局方「モンテルカストナトリウム」の確認試験法による。

- 1) ナトリウム塩の定性反応
- 2) 紫外可視吸光度測定法
- 3) 赤外吸収スペクトル測定法

4. 有効成分の定量法

日本薬局方「モンテルカストナトリウム」の定量法による。

- ・液体クロマトグラフィー

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、外観及び性状

製品名	性状	外形			サイズ・重量
		表面	裏面	側面	
モンテルカスト錠 5mg「科研」	明るい灰黄色のフィルムコーティング錠				直径：6.1mm 厚さ：3.4mm 重量：103mg
モンテルカスト錠 10mg「科研」					直径：8.1mm 厚さ：4.0mm 重量：205mg

(2) 製剤の物性

該当資料なし

(3) 識別コード

モンテルカスト錠 5mg「科研」 : DK551 (包装表示)

モンテルカスト錠 10mg「科研」 : DK552 (包装表示)

(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等

該当資料なし

2. 製剤の組成

(1) 有効成分（活性成分）の含量

モンテルカスト錠 5mg「科研」 : 1錠中に日局モンテルカストナトリウム（モンテルカストとして 5mg）を含有する

モンテルカスト錠 10mg「科研」 : 1錠中に日局モンテルカストナトリウム（モンテルカストとして 10mg）を含有する

(2) 添加物

[モンテルカスト錠 5mg「科研」、モンテルカスト錠 10mg「科研」]

乳糖水和物、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、クロスカルメロースナトリウム、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、酸化チタン、カルナウバロウ、黄色三酸化鉄、三二酸化鉄

(3) その他

特になし

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性

最終包装製品を用いた長期保存試験及び加速試験の結果、通常の流通過程で少なくとも3年間の品質保証は可能であると判断した¹⁾。

製品名	保存条件	包装形態	保存期間	結果
モンテルカスト錠 5mg 「科研」	40±2℃ 75±5%RH	PTP 包装	6 ヶ月	適合*
モンテルカスト錠 10mg 「科研」	25±2℃ 60±5%RH	PTP 包装	36 ヶ月	適合*

※性状、確認試験、純度試験、製剤均一性試験（含量均一性試験）、溶出性、定量

【無包装状態での安定性試験²⁾】

試験項目：性状、純度試験、溶出性、定量、硬度

製品名	保存条件	包装形態	保存期間	結果
モンテルカスト錠 5mg 「科研」	40±2℃ 75±5%RH	遮光・気密容器	3 ヶ月	変化なし
	25±2℃ 75±5%RH	開放	3 ヶ月	硬度低下を認めた
	2500lx 25±2℃ 45±5%RH	開放	12500lx・hr	12500lx・hr で一部類縁物質が規格外となった
モンテルカスト錠 10mg 「科研」	40±2℃ 75±5%RH	遮光・気密容器	3 ヶ月	変化なし
	25±2℃ 75±5%RH	開放	3 ヶ月	硬度低下を認めた
	2500lx 25±2℃ 45±5%RH	開放	12500lx・hr	変化なし

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当資料なし

6. 他剤との配合変化（物理化学的変化）

該当資料なし

7. 溶出性

【日本薬局方に基づく試験】

モンテルカスト錠 5mg 「科研」及びモンテルカスト錠 10mg 「科研」は、日本薬局方医薬品各条に定められたモンテルカストナトリウム錠の溶出規格に適合していることが確認されている³⁾。

【後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン（平成 24 年 2 月 29 日改正 薬食審査発 0229 第 10 号 別紙 1）（モンテルカスト錠 10mg 「科研」）及び含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン（平成 24 年 2 月 29 日改正 薬食審査発 0229 第 10 号 別紙 2）（モンテルカスト錠 5mg 「科研」）に基づく試験】

1) モンテルカスト錠 5mg 「科研」

①試験法：日本薬局方一般試験法溶出試験法 パドル法

②試験条件

試験液量：900mL

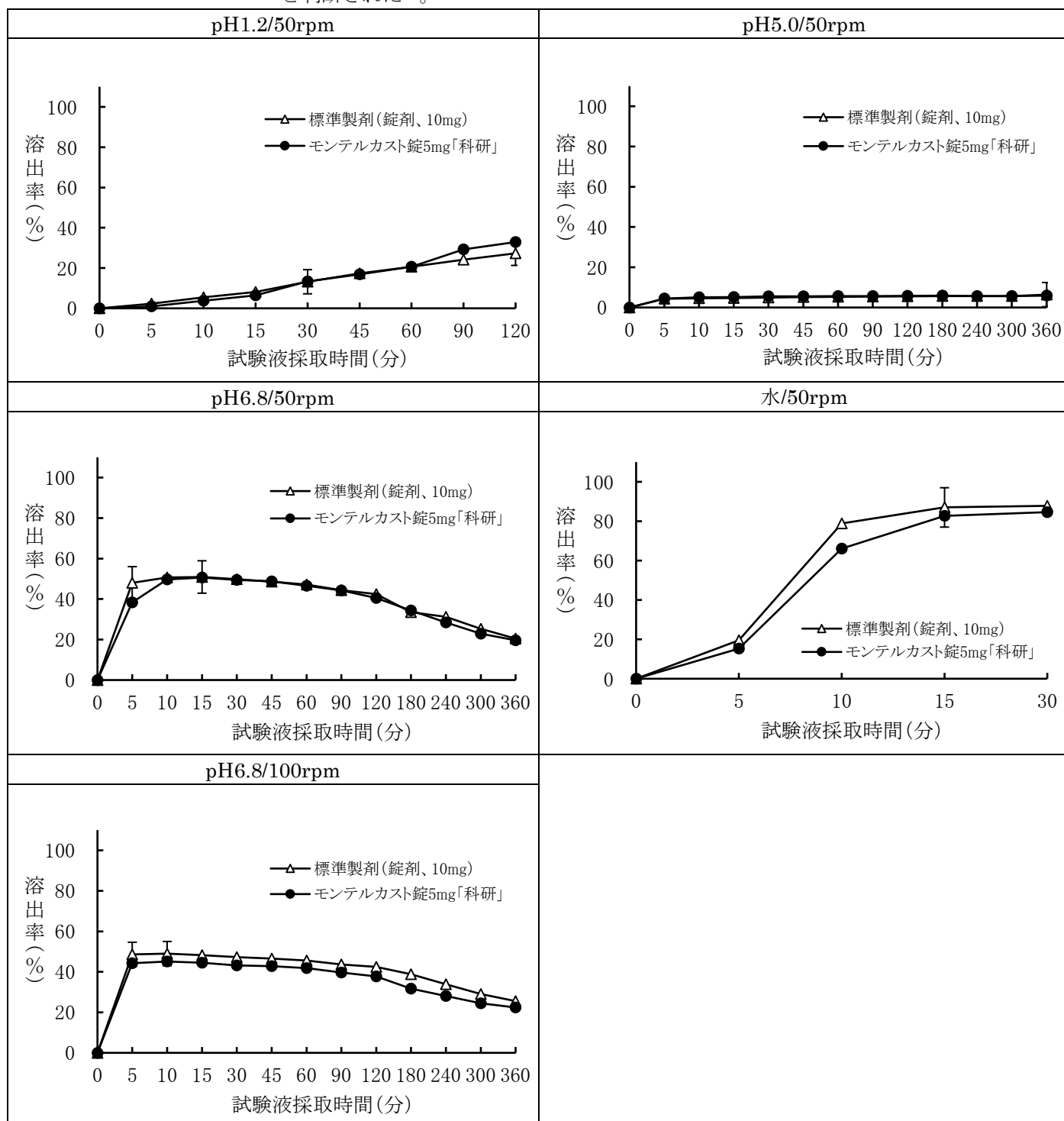
測定方法：液体クロマトグラフィー

各種条件：

IV. 製剤に関する項目

試験液	サンプリング時間 (分)	回転数
pH1.2	5,10,15,30,45,60,90,120	50rpm
pH5.0	5,10,15,30,45,60,90,120,180,240,300,360	
pH6.8	5,10,15,30,45,60,90,120,180,240,300,360	
水	5,10,15,30	100rpm
pH6.8	5,10,15,30,45,60,90,120,180,240,300,360	
試験液温	37.0±0.5℃	
ベッセル数	12 ベッセル	

③試験結果：「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」に従って溶出試験を実施した結果、モンテルカスト錠 5mg「科研」の溶出挙動は5条件すべてにおいて基準に適合したため、試験製剤と標準製剤の溶出挙動は同等であると判断された³⁾。



2) モンテルカスト錠 10mg「科研」

①試験法：日本薬局方一般試験法溶出試験法 パドル法

②試験条件

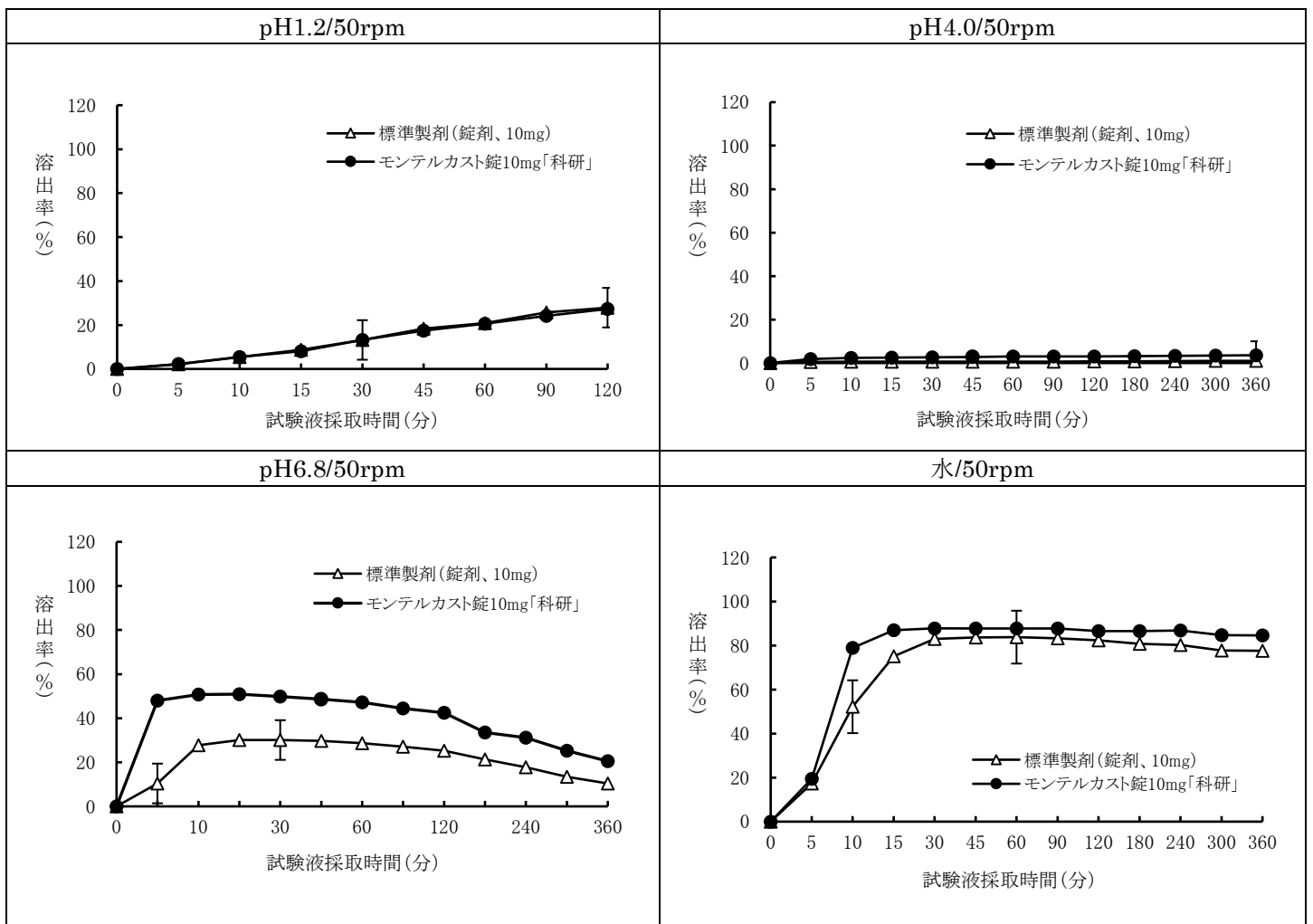
試験液量：900mL

測定方法：液体クロマトグラフィー

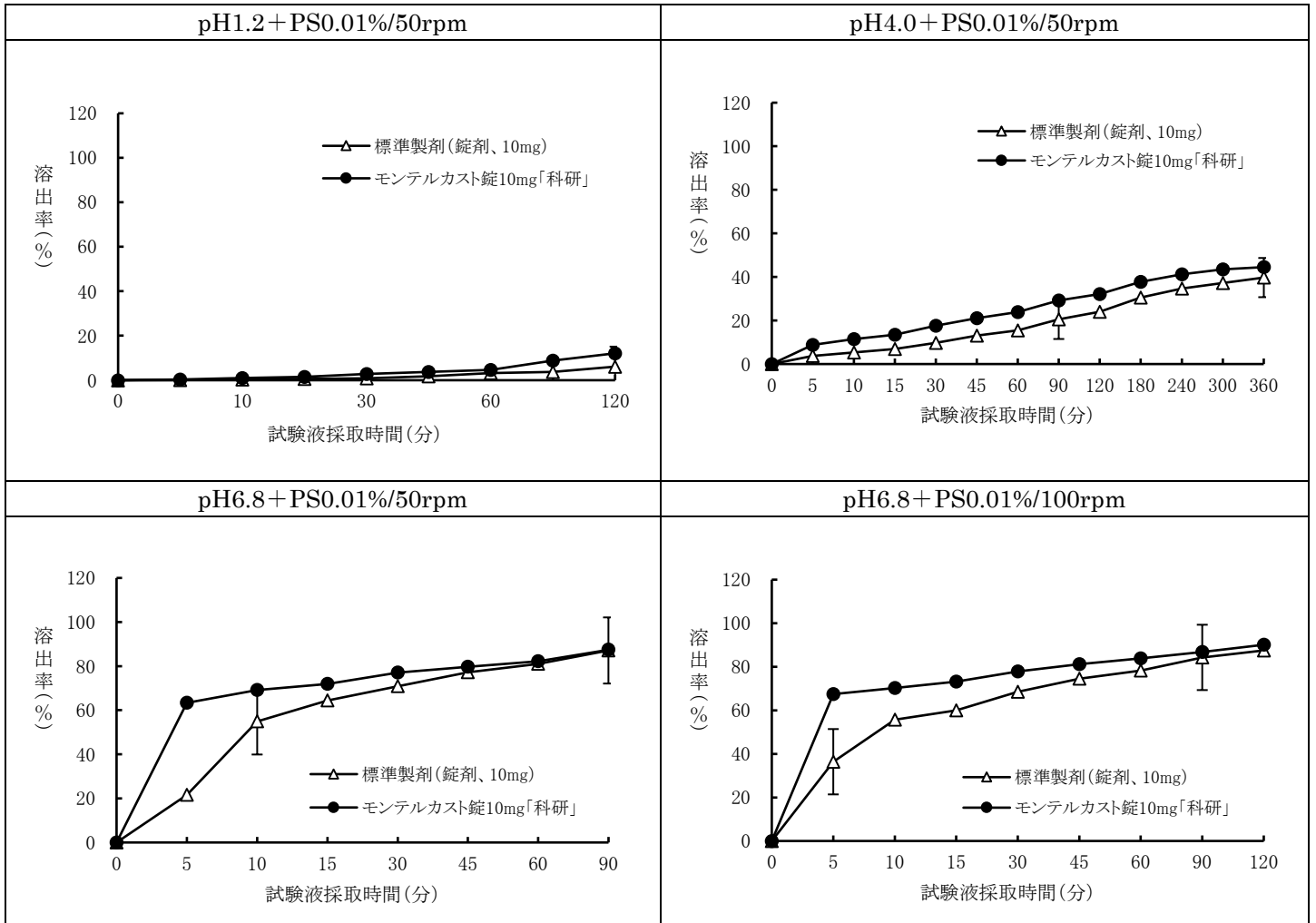
各種条件：

試験液	サンプリング時間 (分)	回転数
pH1.2	5,10,15,30,45,60,90,120	50rpm
pH4.0	5,10,15,30,45,60,90,120,180,240,300,360	
pH6.8	5,10,15,30,45,60,90,120,180,240,300,360	
水	5,10,15,30,45,60,90,120,180,240,300,360	
pH1.2+PS0.01%	5,10,15,30,45,60,90,120	
pH4.0+PS0.01%	5,10,15,30,45,60,90,120,180,240,300,360	
pH6.8+PS0.01%	5,10,15,30,45,60,90	
pH6.8+PS0.01%	5,10,15,30,45,60,90,120	100rpm
試験液温	37.0±0.5℃	
ベッセル数	12ベッセル	

③試験結果：「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」に従って溶出試験を実施した結果、モンテルカスト錠 10mg「科研」の溶出挙動は基準に適合しなかったため、両製剤の溶出挙動の類似性は得られなかった。



IV. 製剤に関する項目



8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

日本薬局方「モンテルカストナトリウム錠」の確認試験法による。
 ・紫外可視吸光度測定法

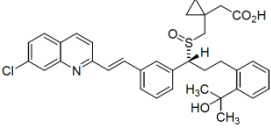
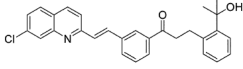
10. 製剤中の有効成分の定量法

日本薬局方「モンテルカストナトリウム錠」の定量法による。
 ・液体クロマトグラフィー

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

類縁物質名、化学式	構造式	略号	由来
スルホキシド体 (1-{{(1-{{3-{{(1 <i>E</i> -2-(7-Chloroquinolin-2-yl)ethenyl}}phenyl}}-3-{{2-{{(1-hydroxy-1-methylethyl}}phenyl}}propyl}}sulfinyl}}methyl}}cyclopropyl)acetic acid	 $C_{35}H_{36}ClNO_4S$: 602.18	類縁物質 A	分解生成物 (IF 記載)
ケトン体 (<i>E</i>)-1-{{3-{{2-{{(7-Chloroquinolin-2-yl)vinyl}}phenyl}}-3-{{2-{{(2-hydroxypropan-2-yl}}phenyl}}propan-1-one	 $C_{29}H_{26}ClNO_2$:455.98	類縁物質 C	原料中の類縁物質 (USP 記載)

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当資料なし

14. その他

特になし

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

気管支喘息、アレルギー性鼻炎

2. 用法及び用量

<気管支喘息>

通常、成人にはモンテルカストとして10mgを1日1回就寝前に経口投与する。

<アレルギー性鼻炎>

通常、成人にはモンテルカストとして5~10mgを1日1回就寝前に経口投与する。

<用法・用量に関連する使用上の注意>

- (1) モンテルカストフィルムコーティング錠はモンテルカストチュアブル錠と生物学的に同等ではないため、モンテルカストフィルムコーティング錠 5mg とモンテルカストチュアブル錠 5mg をそれぞれ相互に代用しないこと。
- (2) 気管支喘息及びアレルギー性鼻炎を合併し本剤を気管支喘息の治療のために用いる成人患者には、モンテルカストとして10mgを1日1回就寝前に経口投与すること。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当しない

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

該当資料なし

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

ロイコトリエン受容体拮抗薬（プラニルカスト水和物）

2. 薬理作用

（1）作用部位・作用機序

アレルギーのメディエーターの 1 つであるロイコトリエン（LT）の受容体には、CysLT₁ 受容体と CysLT₂ 受容体があるが、本薬は CysLT₁ 受容体遮断薬であり、気管支喘息やアレルギー性鼻炎に用いられる⁴⁾。

（2）薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

（3）作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

「(3) 臨床試験で確認された血中濃度」の項参照

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

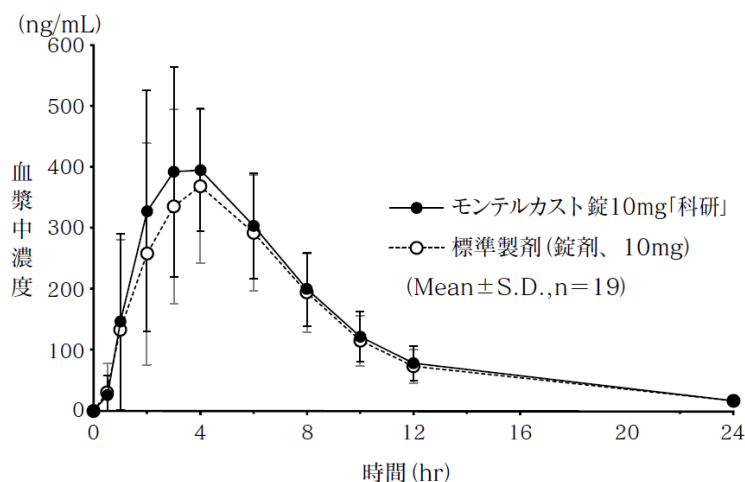
1) モンテルカスト錠 5mg 「科研」

モンテルカスト錠 5mg 「科研」は、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」（平成 24 年 2 月 29 日付 薬食審査発 0229 第 10 号）に基づき、モンテルカスト錠 10mg 「科研」を標準製剤としたとき、各試験条件における溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた⁵⁾。

2) モンテルカスト錠 10mg 「科研」

〔後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン〕（平成 24 年 2 月 29 日 薬食審査発 0229 第 10 号 別紙 1）に準拠し実施）

健康成人男子にモンテルカスト錠 10mg 「科研」と標準製剤のそれぞれ 1 錠（モンテルカストとして 10mg）を、絶食時単回経口投与して血漿中モンテルカスト未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された（クロスオーバー法）⁵⁾。



薬物動態パラメータ（平均±標準偏差、n=19）

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
モンテルカスト錠 10mg 「科研」	3325 ± 848	459.5 ± 127.0	3.5 ± 1.3	5.0 ± 0.7
標準製剤 (錠剤、10mg)	3071 ± 844	426.2 ± 119.6	3.8 ± 1.4	5.3 ± 0.9

血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

<参考>

「VIII - 6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法 (2)」及び「VIII - 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 (1)」の項参照

(6) 母集団 (ポピュレーション) 解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

58~67%⁴⁾

(4) 消失速度定数

0.1404±0.0185 (hr⁻¹) (平均±標準偏差、n=19)

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

ヒト血漿蛋白結合率は 99.6%であり、生理的な濃度のアルブミン及びα1-酸性糖蛋白質の両方に 99%以上結合する⁴⁾。

3. 吸 収

該当資料なし

4. 分 布

(1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

<参考>

「VIII - 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 (1)」の項参照

(3) 乳汁への移行性

「VIII - 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 (2)」の項参照

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代 謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

肝臓

(2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分子種

CYP2C8 (主要代謝酵素)、CYP2C9、CYP3A4⁴⁾

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排 泄

(1) 排泄部位及び経路

糞中

健康成人男性に 400mg を単回経口投与した場合、尿中に未変化体は検出されない⁴⁾。

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

「Ⅳ. 治療に関する項目」参照

5. 慎重投与内容とその理由

該当しない

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

重要な基本的注意

- (1) 本剤は、喘息の悪化時ばかりでなく、喘息が良好にコントロールされている場合でも継続して服用するよう、喘息患者に十分説明しておくこと。
- (2) 本剤は気管支拡張剤、ステロイド剤等と異なり、すでに起こっている喘息発作を緩解する薬剤ではないので、このことは患者に十分説明しておく必要がある。
- (3) 気管支喘息患者に本剤を投与中、大発作をみた場合は、気管支拡張剤あるいはステロイド剤を投与する必要がある。
- (4) 長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイドの減量をはかる場合は十分な管理下で徐々に行うこと。
- (5) 本剤投与によりステロイド維持量を減量し得た患者で、本剤の投与を中止する場合は、原疾患再発のおそれがあるので注意すること。
- (6) モンテルカスト製剤との因果関係は明らかではないが、うつ病、自殺念慮、自殺及び攻撃的行動を含む精神症状が報告されているので、患者の状態を十分に観察すること。（「その他の注意」の項参照）
- (7) モンテルカスト製剤を含めロイコトリエン拮抗剤使用時に好酸球性多発血管炎性肉芽腫症様の血管炎を生じたとの報告がある。これらの症状は、おおむね経口ステロイド剤の減量・中止時に生じている。本剤使用時は、特に好酸球数の推移及びしびれ、四肢脱力、発熱、関節痛、肺の浸潤影等の血管炎症状に注意すること。
- (8) 本剤投与により効果が認められない場合には、漫然と長期にわたり投与しないように注意すること。

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当しない

(2) 併用注意とその理由

併用注意 (併用に注意すること)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
フェノバルビタール	本剤の作用が減弱するおそれがある。	フェノバルビタールが CYP3A4 を誘導し、本剤の代謝が促進される。

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

重大な副作用	
1) アナフィラキシー	アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。
2) 血管浮腫	血管浮腫があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。
3) 劇症肝炎、肝炎、肝機能障害、黄疸	劇症肝炎、肝炎、肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。
4) 中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)、皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson 症候群)、多形紅斑	中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。
5) 血小板減少	血小板減少 (初期症状: 紫斑、鼻出血、歯肉出血等の出血傾向) があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

その他の副作用	
次のような症状又は異常があらわれた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。	
頻度 分類	頻度不明
過敏症	皮疹、そう痒、蕁麻疹、肝臓の好酸球浸潤
精神神経系	頭痛、傾眠、情緒不安、不眠、幻覚、めまい、感覚異常 (しびれ等)、異夢、易刺激性、痙攣、激越、振戦、夢遊症、失見当識、集中力低下、記憶障害、せん妄、強迫性症状
呼吸器	肺好酸球増多症
消化器系	下痢、腹痛、胃不快感、嘔気、胸やけ、嘔吐、便秘、口内炎、消化不良
肝臓	肝機能異常、AST (GOT) 上昇、ALT (GPT) 上昇、Al-P 上昇、 γ -GTP 上昇、総ビリルビン上昇
筋骨格系	筋痙攣を含む筋痛、関節痛
その他	口渇、尿潜血、血尿、尿糖、浮腫、倦怠感、白血球数増加、尿蛋白、トリグリセリド上昇、出血傾向 (鼻出血、紫斑等)、動悸、頻尿、発熱、脱毛、挫傷、脱力、疲労、遺尿

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

「2. 禁忌内容とその理由」「(2) 重大な副作用と初期症状」及び「(3) その他の副作用」の項参照

9. 高齢者への投与

該当しない

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。海外の市販後において、妊娠中にモンテルカスト製剤を服用した患者から出生した新生児に先天性四肢奇形がみられたとの報告がある。これらの妊婦のほとんどは妊娠中、他の喘息治療薬も服用していた。モンテルカスト製剤とこれらの事象の因果関係は明らかにされていない。]

(2) 授乳中の婦人に投与する場合は慎重に投与すること。

[動物実験(ラット)で乳汁中への移行が報告されている。]

11. 小児等への投与

小児等への投与

<気管支喘息>

1) 6歳以上の小児に対しては、モンテルカストチュアブル錠 5mg を1日1回就寝前に投与すること。

2) 1歳以上6歳未満の小児に対しては、モンテルカスト細粒 4mg を1日1回就寝前に投与すること。

3) 1歳未満の乳児、新生児、低出生体重児に対するモンテルカスト製剤の安全性は確立していない。

[国内でのモンテルカスト製剤の使用経験がない。]

<アレルギー性鼻炎>

小児等に対するモンテルカスト製剤の安全性は確立していない。

[国内でのモンテルカスト製剤の使用経験がない。]

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当しない

13. 過量投与

該当しない

14. 適用上の注意

適用上の注意

(1) 薬剤交付時

PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。(PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

(2) 本剤は、食事の有無にかかわらず投与できる。

15. その他の注意

その他の注意

他社が実施したプラセボ対照臨床試験 41 試験を対象に統合解析を行った結果、モンテルカスト製剤投与群 9,929 例中 1 例において自殺念慮が認められたのに対して、プラセボ群 7,780 例において自殺念慮は認められなかった。また、他社が実施したプラセボ対照臨床試験 46 試験を対象に統合解析を行った結果、行動変化に関連する事象(不眠、易刺激性等)が、モンテルカスト製剤投与群 11,673 例中 319 例(2.73%)、プラセボ群 8,827 例中 200 例(2.27%)において認められたが、統計学的な有意差は認められなかった。

16. その他

特になし

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験

「VI. 薬効薬理に関する項目」参照

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤：該当しない
有効成分：該当しない

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年（安定性試験結果に基づく）

3. 貯法・保存条件

気密容器、遮光、室温保存（開封後は湿気を避けて保存すること）

4. 薬剤取扱い上の注意点

（1）薬局での取扱い上の留意点について

該当しない

（2）薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

薬剤交付時：PTP包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。（PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。）

くすりのしおり：あり
患者向医薬品ガイド：あり

（3）調剤時の留意点について

該当しない

5. 承認条件等

該当しない

6. 包 装

[モンテルカスト錠 5mg 「科研」]
PTP・・・ 100錠（10錠×10）
[モンテルカスト錠 10mg 「科研」]
PTP・・・ 100錠（10錠×10）、140錠（14錠×10）

7. 容器の材質

[モンテルカスト錠 5mg 「科研」、モンテルカスト錠 10mg 「科研」]
[PTP包装製品]
PTP・・・ ポリプロピレン・環状ポリオレフィン、アルミニウム
ピロー・・・ アルミニウム・ポリエチレンラミネートフィルム
個装箱・・・ 紙

8. 同一成分・同効薬

同一成分薬：キプレス錠 5mg/10mg、キプレス OD 錠 10mg、キプレスチュアブル錠 5mg、キプレス細粒 4mg、シングレア錠 5mg/10mg、シングレア OD 錠 10mg、シングレアチュアブル錠 5mg、シングレア細粒 4mg
 同効薬：ロイコトリエン受容体拮抗薬（プラニルカスト水和物）

9. 国際誕生年月日

1997年7月31日（メキシコ）

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製品名	製造販売承認年月日	承認番号
モンテルカスト錠 5mg 「科研」	2016年8月15日	22800AMX00574000
モンテルカスト錠 10mg 「科研」		22800AMX00575000

11. 薬価基準収載年月日

2016年12月9日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

○承認時（2016年8月15日承認）

【効能・効果】アレルギー性鼻炎

【用法・用量】通常、成人にはモンテルカストとして5～10mgを1日1回就寝前に経口投与する。

○効能・効果、用法・用量の追加（下線部、2017年1月18日承認）

【効能・効果】気管支喘息、アレルギー性鼻炎

【用法・用量】

<気管支喘息>

通常、成人にはモンテルカストとして10mgを1日1回就寝前に経口投与する。

<アレルギー性鼻炎>

通常、成人にはモンテルカストとして5～10mgを1日1回就寝前に経口投与する。

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

製品名	HOT（9桁）番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算コード
モンテルカスト錠 5mg 「科研」	125311501	4490026F3179	622531101
モンテルカスト錠 10mg 「科研」	125312201	4490026F2199	622531201

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

XI. 文献

1. 引用文献

- 1) ダイト株式会社 社内資料（安定性試験）
- 2) ダイト株式会社 社内資料（無包装状態での安定性試験）
- 3) ダイト株式会社 社内資料（溶出試験）
- 4) 第十八改正日本薬局方解説書
- 5) ダイト株式会社 社内資料（生物学的同等性試験）

2. その他の参考文献

該当資料なし

XII. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

該当資料なし

2. 海外における臨床支援情報

該当資料なし

XIII. 備考

1. その他の関連資料

(1) GS1 コード

製品名	包装	GS1 コード	
		販売包装単位	調剤包装単位
モンテルカスト錠 5mg「科研」	100錠 PTP	(01)14987042 154126	(01)04987042 154518
モンテルカスト錠 10mg「科研」	100錠 PTP 140錠 PTP	(01)14987042 154225 (01)14987042 154249	(01)04987042 154617 (01)04987042 154624